



2020・10・11

第 388 号

101-0065 東京都千代田区

西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

民主主義への挑戦 学術会議員任命拒否

野党代表らが菅内閣を糾弾

【香川県／九条の会かがわ・香川革新懇】

九条の会かがわと香川革新懇は6日、高松市内でアベ政治の転換を求めて集会とデモ行進を行い、40人が参加しました。

立憲民主党県連の富野和憲代表代行、共産党の岡田まなみ高松市議、社民党の吉峰幸夫高松市議、県労連の藤沢義輝事務局長がそれぞれ、菅首相による日本学術会議会員の任命拒否問題で「野党は閉会中審査の中で問題を取上げていく」「恣意的な政策はすべきではない」と批判、「本気で暮らしと命を守ろうとすれば、消費税を減税し、公立・公的病院の統廃合を中止すべきだ。総選挙で政権交代し、一人ひとりが大切にされる社会をつくろう」とよびかけました。

市内の女性（61）は、「学術会議の任命拒否はひどい。総選挙の野党共闘で、菅政権が支持されていないと付きつけていきたい」と話しました。

菅政権の学術会議会員任命拒否は暴挙

【北海道苫小牧市／平和憲法を生かす

自民、年内に改憲条文案策定へ

自民党の改憲推進本部は8日、菅政権下で初の役員会を開き、衛藤征士郎本部長体制を発足させました。

衛藤本部長はあいさつで、「憲法は国の独立、国民の命を守る基本法だ。国民の期待に応えるため、全力あげて取り組む」と強調し、将来的に改憲案の国会提出を念頭に「憲法改正原案起草委員会」を発足させ、自衛隊の明記など党が掲げる4項目について議論し、年内に改憲条文案のとりまとめをめざすことを表明しました。

安倍政権下で改憲論議の中核を担った高村雅彦前副総裁のほか、二階俊博幹事長や細田博之元官房長官らの各派閥の領袖を最高顧問に、野田聖子幹事長代行や稲田明美元防衛相を副本部長、事務総長に新藤義孝元総務相をすえる挙党体制をしきました。

苫小牧連絡会】 平和憲法を生かす苫小牧

連絡会は2日、安倍9条改憲を継承する菅政権を許さないと金曜スタンディング行動を実施しました。

「平和憲法を未来につなぐ」と書いた1人の横断幕とプラカードを掲げました。

美光九条の会の能勢公（いさお）事務局長が、「新政権が学術会議人事に介入し、安倍政治に反対した人たちを任命拒否したことはこの政権の本質を明らかにしています」と強調、菅政権の暴挙をただすために奮闘しようとよびかけました。

「苦小牧連絡会」は2018年2月、元苦小牧市長や元市議会議員らが呼びかけ、3000万人署名を広げようと結成。スタンディングは70回に。小雨や強い風が吹くなか、道行く人や車から応援の手が振られました。

総選挙で改憲の息の根を止める

【名古屋市守山区／もりやま九条の会】

もりやま九条の会は3日、結成14周年のつどいを開き、150人が参加しました。

永峯信彦愛知大学教授が「コロナ禍に便乗した壊憲策動を斬る一憲法制定経過の真実と平和憲法を守る歴史的責任」と題して記念講演。菅義偉首相について「安倍政権のど真ん中にいた人。政治の私物化、コロナ対策の迷走などで行き詰まった『安倍政治』を継承すると言っている。苦労人どころか『安倍クローン』人になったようだ。学術会議への人事介入は馬脚を現したものだ」と批判。人権や民主主義を規定した日本国憲法の先駆性、9条をはじめとする憲法を守る意義を述べ、「菅首相や自民党は改憲を断念していない。全国各地で改憲阻止の運動を広げていこう」と呼びかけました。

世話人の田原裕之弁護士は、「今年の13周年は参院選で改憲勢力を3分の2以下にして開いた。総選挙で市民と野党の共闘を広げ衆議院でも改憲勢力を少数に追い込んで15周年を迎えよう」と訴えました。

家族3人で参加した男性（68）は、「安倍さんが退陣しても安心できない。改憲の息の根を止めるため総選挙をがんばりたい」と話しました。

オープニングには、うた声サークル有志でつくる「守山ピース&ラブ」の合唱が披露されました。

9条破壊と軍拡引き継ぐ菅政権

【青森県／青森県九条の会】 青森県九条の会は3日昼、青森市の駅前公園で定例の「アベ政治を許さない」スタンディング行動に取り組み、市民へアピールしました。

曇り空からポツポツと雨が落ちてくる中、参加者10人、9条の会のノポリヤ、真っ赤なリンゴの絵に「まもろう平和憲法」と書かれたプラカードなどを掲げ、リレートークしました。

マイクを握った参加者は、軍拡と9条改憲で平和を壊してきた「安倍政権を引き継ぐ」と言うのが菅政権だと強調。敵基地攻撃能力保有論を批判し、「戦争する国にしない。くらしや平和を守るために一緒に声を広げていきましょう」と呼びかけました。

プラカードやゼッケンにうなずく通行人や、「がんばってね」と激励していく人も多く、市民から注目を集めました。

元気もらった望月記者の講演

【東京都足立区／千住九条の会等】

9月25日、「千住九条の会」と「東京民医連東部東葛ブロック」の主催で「望月衣塑子氏講演会」と「ザ・ニューズペーパー」福本ヒデのミニライブを開催しました。コロナ対策として100名限定でライブ配信も行い、万全の態勢で臨みました。

菅政権発足直後の望月さんの講演というタイムリーな企画のため100名を超える人々が望月さんの熱くパワフルな講演に聴き入りました。

望月さんは「安倍政権の7年8ヵ月は何だったのか」「安倍政権後の政治・社会の動き」というテーマで安倍政権の暴政について、「森友・加計」疑惑の中心は安倍前首相であり森友改ざん事件で自殺した赤木俊夫さんの無念をはらすため、様々な疑惑を追究するため尽力していく」と述べました。

また、望月さんの質問を一年半も妨害し続けた菅氏が首相になったが菅政権は安倍政治の継承者であり、国会答弁は避けたい、改憲に挑戦しつつけるなど今までよりひどい政治が行われる、民主主義を実現するために連帯し声をあげ腐敗した政治を変えようと訴えました。

望月さんを応援したい、元気をもらったとの声が多数寄せられました。国家権力の圧力にも屈せずたたかう望月さんに連帯し共に頑張っていきたいと思います。

(千住九条の会 中田順子)

放射性廃棄物で大討論を提起

【北海道／医療九条の会・北海道】北海道寿都（すつつ）町長が原発から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定への文献調書応募の意向を明らかにした

ことに抗議し、医療九条の会・北海道は声明を発表し、9月26日、片岡春雄町長に送付しました。

医療九条の会は、医療者の立場から、ひとたび事故が起きれば取り返しのつかない命と健康の被害をもたらす原発そのものを早急に廃止する必要がある、原発の継続を前提とした国の処分場設置計画に反対を表明しています。

声明は、「寿都町だけでなく周辺市町村、北海道、ひいては日本全体に原発の負の遺産をさらに増やすきっかけになる極めて大きな問題」と指摘。「これは今生きている私たちだけでなく、将来の子孫の生活環境、健康に影響する大問題」と警鐘を鳴らします。

日本全体に重大な影響をもたらす問題を一町長、一地方議会だけで決めることはまったく民主的でないと強調。「多くの人々の考えを共有し、討論し、未来の世代に責任を持てる結論を出す必要がある」として、大討論会を提起しています。

コロナ禍はねかえした音楽会

【仙台市若林区／南小泉・蒲町校区9条の会】9月20日の結成5周年記念の集会は、コロナウィルスの県内感染数が今までの数値を更新するという状況の中で、会場定員80人にたいし主催側が決めた50人の定員を超える方が集まりました。

「命を守るためには平和が大事。そして音楽・芸術も欠かせない。コロナ禍の中でみんなで元気になる演奏会にしよう」と司会者の熱のこもったオープニング。いつもは木下順子さんと夫婦デュオのタタル・ヘ

ンリさんには久しぶりの単独演奏会だったようですが、素晴らしいヴァイオリンの音色に会場は酔いました。

「ヘンリさんの発するオーラにまず圧倒されました。」「とっても、とっても暖かくて、すてきな演奏会でしたね。」「夫婦で参加しましたが『癒されたね。やっぱり生演奏は違うね。胸に響いたね。』と話しながら帰ってきました。」「すばらしい演奏でした。CDを2枚買いました。」等々、たくさんの感想が後日寄せられました。（事務局 松尾重信 「みやぎの九条」No331）

九条の会メールへの投稿

街頭での署名活動に感銘

はじめまして。京都府在住の32歳主婦です。

この間、中村哲さんの活動の展示会を見に行き、その帰りに道に駅で憲法改正反対の署名活動をされている方々に出逢い、感銘を受けました。

2005年に発行された、『憲法を変えて戦争へ行こうという世の中にしないための18人の発言(岩波ブックレット)』を手元に持ち、一社会人として、ひとりの子供の母親として、戦争について、平和について、考えながら生きてきました。

中村哲さんの展示会を拝見してからは、また新たに、平和について考えています。

戦争と平和について、もっと身近に、もっと活発に、周囲と語り合える社会であって欲しいと願いつつ、現実には『憲法改正反対』を声高く謳うことが憚れる雰囲気があるのが現実なところがあります。

こんなにシンプルで、わかり易く、当たり前のことなのに、どうしてこんなに難しくなっているのでしょうか...？

これまで私は、具体的な改憲反対運動を実行してはいませんでしたが、実行の第一歩として今回の署名を通して再認識したこと、実感したことがありました。

憲法9条を守るということは、

『武力によらない問題解決を図ることが大切』であることを大前提とし、まずは、『戦争をしてはいけない』ということが最も大切であり、最優先すべき意志だということなのだと分かりました。

『戦争が起こり得る状況』『戦争を起こすことが可能な状況』自体を、作ってはいけないのだと、分かりました。

なぜなら、気分は変わるからです。

人間の歴史は、戦争を繰り返してきました。政府が変われば、世界情勢が変われば、国の『意思』なんていうものは、如何様にも変わるからです。そんなものに左右されない為に、『戦争を起こすことが可能な状況を作らないこと』が、何よりも大切なことなのだと、一国民として、社会人として、心から思いました。

署名活動への意見箱が見当たらなかった為、こちらにメールさせて頂きました。

全国で署名運動をされている方々に、敬意を抱きます。

私も、今この時代を生きる同志たちと共に、『戦争はしたくない』という意志を発していける親であり、人で在りたいと、強く思います。

どうもありがとうございました。